

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業  
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究  
分担研究報告書

**本邦 IBD における大腸癌/dysplasia の危険因子の検討 -前向き観察的コホート研究にむけて-**

研究分担者 中村志郎 兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科部門 教授

研究要旨：IBD においては、長期経過に伴い慢性炎症を背景とした大腸癌/dysplasia を併発する患者の増加が既に本邦と欧米で報告されている。これら疾患の併発は患者の生命予後にも大きく関わるため、長期予後改善のためにも臨床的に重要な問題となっている。これら病変併発の危険因子の探索は、サーベイランスをよりの確で効率的に行うためにも必要であるが、本邦では小規模の後ろ向き研究が少数のみで未だ十分には解明されていない。また、本邦では欧米と比較し、IBD に大腸癌の危険因子とされる PSC の合併が低率、クローン病では直腸肛門部癌の合併が高率など患者の背景に差異があり、危険因子の異なる可能性が示唆される。このような背景から、本邦の IBD 患者を対象に、大腸癌/dysplasia 発症に関わる危険因子の解明を目的とし前向き観察的コホート研究を実施する。

共同研究者

高川哲也<sup>1</sup>、佐藤寿行<sup>1</sup>、河合幹夫<sup>1</sup>、上小鶴孝二<sup>1</sup>、  
横山陽子<sup>1</sup>、木田裕子<sup>1</sup>、宮崎孝子<sup>1</sup>、飯室正樹<sup>1</sup>、  
樋田信幸<sup>1</sup>、堀 和敏<sup>1</sup>、中村志郎<sup>1</sup>  
(兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座 内科部門<sup>1</sup>)

現在、炎症性腸疾患と大腸癌/dysplasia に関する欧米、本邦の文献で、今後、二次調査で採用すべき患者の背景因子・臨床因子について検討した。

A. 研究目的

本邦の炎症性腸疾患患者を対象として、大腸癌/dysplasia 発症に関わる臨床的な危険因子を解明する

B. 研究方法

現在、本研究班の疫学・研究成果公表プロジェクト「潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数統計に関する全国調査」において、今後実施される二次調査の調査内容の策定に参加、大腸癌/dysplasia の危険因子に関わる臨床的調査項目を選定し、その後、対象患者を前向きに観察し大腸癌/dysplasia 併発の有無で、患者背景因子を比較検討することで危険因子を解明する。

C. 研究結果

D. 考察

「潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数統計に関する全国調査」の二次調査の進行に合わせ、適切な調査項目の選定のためのプロジェクトチームを今後立ち上げ、二次調査内容の策定に参加する。

E. 結論

「潰瘍性大腸炎およびクローン病の有病者数統計に関する全国調査」の二次調査に平行し、本邦 IBD における大腸癌/dysplasia の危険因子に関する 前向き観察的コホート研究を継続、推進する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし